

2022(令和4)年度事業報告書(案)

特定非営利活動法人 性暴力被害者支援センター・ひょうご

【直接支援事業】

1. 電話件数:456(電話相談/ホットライン379件、到着55件、無言22件)
 2. メール相談(兵庫県委託事業):54件
 3. 来所相談:のべ66件 事案数28件
 4. SNS相談(キュアタイム)内閣府事業:12回
1. 電話相談/ホットラインは前年度387件とほぼ変化なしであった。男性からの被害相談は6件である。相談者は子ども家庭センターが多く、本人、保護者、警察署や学校関係者(中学校・大学)などからの相談があった。内容としては診察つきそい希望が最も多く、被害後にどうしたらいいか、性的画像への対応、児童生徒間で起きた被害や親族から受けた被害への対応などがあった。
 2. メール相談は2022年度より県の委託事業となったが、前年度92件から41%減少した。要因としてLINE、チャットなどのSNS相談が急速に普及していることが考えられた。
 3. 来所相談(のべ)は前年度74件から10.8%減少したが、医療支援は36.8%増の26件となった。サポートパックによる医療費助成を実施した(1件)。事案数28件のうち男性の被害は2件であった。被害時年齢は15歳以下が64%を占めており、SNSで知り合った相手から被害にあうという事案が目立った。

【支援員養成研修事業】

1. 事例検討会/研修会:9回
 2. 支援員養成講座:47名申し込み 46名実施 16名支援員登録予定
 3. オンライン研修:13名
1. 2022年度は感染対策をとりながら、支援員の事例検討会を実施した。木口財団の助成金を得て、2022年1月にはWen-Do研修、3月にはデジタル性暴力とAV新法をテーマに研修会を行った。
 2. 2022年12月から2023年2月に支援員養成講座を実施した(DV被害者支援ボランティア養成講座として兵庫県委託事業)。オンデマンド8回、対面による講座3回を行った。オンデマンドにしたことで、兵庫県外からも受講応募があり、当初予定を上回る人数が参加した。
 3. 内閣府「性暴力、配偶者暴力等被害者支援のためのオンライン研修」1名
内閣府「性犯罪被害者等支援体制整備促進事業」医療関係者等研修 3名
尼崎市DV防止ネットワーク「DV被害者支援研修 ～被害者の心理～」1名
性暴力救援センター全国連絡会全国研修会「男児・男性被害者への支援を考える」8名

【予防啓発事業】

1. 各団体への講演/研修会講師派遣:48件(うち兵庫県内37、兵庫県外11)
2. 兵庫県教育委員会の教職員対象研修にて講話:3回
3. 医療者向け研修(兵庫県委託事業):2022年8月20日 16名参加@姫路 じばさんびる
4. 性教育研究会:2022年6月24日 14名 11月11日18名参加

5. 第15回尼崎市性教育講演会:2022年7月7日 オンライン87名会場103名参加

1. 2022年度は現地開催、オンデマンドあわせて48件の講師派遣依頼があり、「学校で性暴力被害がおこったら～被害・加害児童生徒が同じ学校に在籍している場合の危機対応の手引き」の解説を中心とした医療者、教職員および保護者むけ性暴力予防／性教育が26件、児童生徒むけ性教育が7件、性暴力関連の講演が15件であった。被害者の低年齢化や文部科学省からの「生命の安全教育」実施にあわせ、就学前児童や幼稚園保育所職員に対する講演依頼がめだった。
兵庫県外からは大阪、和歌山、静岡、石川、岡山、宮崎、鳥取、徳島あわせて11件の講演依頼があった。
2. 兵庫県教育委員会の依頼により、新任校長対象の研修会、高校カウンセリングマインド研修、重大事態への対応研修のなかで性暴力被害対応についての講話を行った。
3. 医療者向け研修は姫路での現地開催としたが、コロナの影響があり、参加者は16名であった。しかしオンラインではできない事例提示や所見の提示ができたこと、産婦人科だけでなく小児科医師の参加があり、播磨地域の行政や医療機関と交流をもてたことは意義深いと考えられた。
4. 尼崎市産婦人科医会／尼崎市教育委員会／尼崎市小児科医会／尼崎市医師会／あすか製薬株式会社との共催で尼崎市中央北生涯学習プラザにおいて「～脱衣の問題から考える～内科健診を性教育の機会に」「性教育のこれまでとこれから」をテーマに講演会を開催した。会場には尼崎市内の養護教諭が多く参加し、NPO 法人性暴力被害者支援センター・ひょうごのリーフレットとカードを配布した。

【交流連携事業】

1. バーチャルワンストップ支援センター改編:2022年12月25日より配信
 2. 性暴力・DV被害者対応検討部会:6回@尼崎総合医療センター
 3. スーパーバイズ:2回 尼崎こども相談支援課
 4. あまがさき女性フォーラム:2022年12月4日@尼崎女性センタートレビエ
 5. 兵庫県弁護士会阪神支部との勉強会:2022年11月16日@フェスタ立花北館5階
 6. DV支援連絡会(HYVIS)6回
 7. 兵庫県被害者支援連絡協議会:2022年11月18日
 8. DV防止ネットワーク会議:兵庫県 12月27日 尼崎市 8月4日(研修12月22日)
 9. 性暴力救援センター全国連絡会代表者会議:2回 5月12日 7月16日
 10. ワンストップ支援センターセンター長・コーディネーター研修及び全国ネットワーク会議:2月28日(内閣府)
 11. 自助グループとの連携:年1回ホームページに掲載確認
1. 有園基金助成事業としてバーチャルワンストップ支援センターを改編した。2016年(平成28年)に内閣府モデル事業で整備したウェブサイトをよりユーザーにわかりやすく整理し、事例をブログで提示する、「学校で性暴力被害がおこったら～被害・加害児童生徒が同じ学校に在籍している場合の危機対応の手引き」もダウンロードしやすくするなど改良した。運営維持のための寄付ページも設けた。配信にあたってプレスリリースを行い <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000003.000115956.html> 神戸新聞に掲載された。 <https://www.kobe-np.co.jp/news/hanshin/202303/0016118800.shtml>
- 2-5 連携する兵庫県立尼崎総合医療センターおよび尼崎市行政担当課や県警被害者支援室、兵庫県のDV

担当課、こども家庭センター、内閣府と勉強会や研修会を実施した。事例検討会も行い、行政機関との情報共有や性暴力被害者支援の立場からの提言を行った。

6-10 性暴力被害者支援センターとして各種会議に出席し、性暴力被害の現状について報告した。

【組織基盤強化】

1. チーム活動(有園基金):「性教育／メール相談」「ウェブ／ユニバーサル」「アウトリーチ」「会計」
2. 伴走支援(有園基金):ワークショップ3回とオンラインミーティング
3. 環境整備(有園基金)
 1. 支援員が直接支援以外の事業に対してもチームに分かれて取り組んだ。
 - 性教育／メール相談:性教育研究会の準備や実施、乳幼児からの性教育についての講話や児童養護施設での性教育を実施
 - ウェブ／ユニバーサル:バーチャルワンストップ支援センターリニューアル作業、リーフレット改訂
 - アウトリーチ:尼崎総合医療センター外での支援に関するマニュアル整備
 - 会計:作業の整理と会計補佐の導入
 2. 2021年度に引き続きシミンシーズのファシリテーションで「支援センター・ひょうごのこれから」を模索するワークショップ／オンラインミーティングを開催した。設立10年経過したNPO法人性暴力被害者支援センター・ひょうごの現状を数値化し、当団体が大切にしたいことやできること(枠組み)について支援員・運営委員・理事で話し合った。
 3. 伴走支援での話し合いのなかで、センターの環境整備が必要であることが明らかになり、スキャナーやstuhl棚を有園基金(一部)利用して購入し、書類や備品の整理を行った。

事業実施体制

(1) 会議に関する事項

- ① 2022年度総会(2022年5月21日)
- ② 理事会 年2回
- ③ 運営委員会 月1回(原則第3土曜日)

(2) 事務局体制

事務局:田口奈緒、福岡ともみ、鍋谷美子

(3) その他

- ① テレワークの活用
 - ・会計チームを継続し、会計作業の効率化を図ってきた。
 - ・2020年度に続き、緊急事態宣言下で支援・運営に関わる引継ぎを充実させた。
- ② 運営委員会・事例検討会、テレワークでの託児体制
- ③ ホームページの保守(随時)リニューアル
- ④ 通信の発行(7月、2月)